

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：はじめの一步保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：小島 敦子	定員（利用人数）：90名	
所在地：〒215-0021 川崎市麻生区上麻生7-41-5		
TEL：044-981-5105	ホームページ： https://www.kakinomi.com/hajimenoippo/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2014年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 共遊の会		
職員数	常勤職員：28名 非常勤職員：16名	
専門職員	（専門職の名称）：名 看護師：1名	
	保育士：29名 幼稚園教諭一種免許：1名	
	管理栄養士・栄養士：2名 調理師：3名	
	子育て支援員：4名	
施設・設備 の概要	（居室数） 0歳児保育室 1歳児保育室 2歳児保育室 3歳児保育室 4歳児保育室 5歳児保育室 乳児室 一時保育室	（設備等） 調理室 調理事務所 事務所 相談室 幼児用トイレ 乳児用トイレ 沐浴室 洗濯室

③理念・基本方針

<理念>

健全な心身の発達を図ることを目的とし、子どもの最善の利益を考慮し、子ども達が「よりよく育つ」ことを願い保育を進めていきます。集団での生活を中心に、たくさんの友達と一緒に生活をする場です。自然に囲まれた施設で、五感を通じて、「育ちあいの場づくり」を基本理念として運営致します。

<基本方針>

1. 一人ひとりの気持ちを受けとめる保育
2. あったかいふれあい保育
3. 子どもと共有・共感を大切にする保育
4. 楽しさと興味を育む保育

<保育目標>

優しい心	相手の気持ちを思いやることの出来る仲間づくりをする。
強い心	自分で考え、見通しをもち、行動する、生きる力を育てる。
豊かな心	美しいものを見て、感動する心と豊かな発想と想像力を養う。

④施設・事業所の特徴的な取組

<p><はじめの一步保育園の特徴的な取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> ●広大な自然の中に位置する環境があり、自然がおりなす春夏秋冬を五感を通じて楽しみながら遊んでほしい。散策しながら、自然物に触れ、発見・体験が表現活動にも繋がる。興味関心に繋がった時は、保育士と一緒に実験を試みて学びに繋げてほしいと願っています。 ●食育食農にも関心度が深まることを願い、開墾、土作り、植ええ、お世話、収穫、食育へと繋げていきたい。自然がぼくらの先生だ。自然がぼくらの友達だ。そこでの学びは、子ども達の主体性を持っての取り組みに繋がり、非認知能力が育ち、幼児期の終わりまでに育ててほしい「10の姿」に近づいてほしいと思います。 ●質の向上に向けてさまざまな研修に参加できるよう取り組み、職員間で共有・実践につなげています。 <p>先生が輝けば、子ども達も輝く。保護者も笑顔で安心してお仕事、子育てに繋がっていき、輝くパパ・ママになると考えています。そして子どもたちの満面の笑みは、保護者や保育士への最高のプレゼントとなることを信じ、日々励んでいます。</p>	
--	--

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年06月21日（契約日） ～ 2022年03月03日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2016年度）

⑥総評

<p>【はじめの一步保育園の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●はじめの一步保育園は、昭和37年に神奈川県認可幼稚園として設立された柿の実幼稚園が母体となっています。柿の実幼稚園は昭和56年に法人を「学校法人柿の実学園」とし、今年60周年を迎える名門幼稚園です。最近の子育ての情勢から、幼稚園ではカバーしきれない時間帯等の問題を感じ、保育園設立を企画しましたが、2014年当時は学校法人では保育園運営を認められない状況であったため、別法人として「社会福祉法人共遊の会」を設立し、平成26年4月1日に「はじめの一步保育園」を開園しました。本園は、柿の実幼稚園に隣接し、関連施設は全て利用可能な体制として運営をスタートしました。 ●現在、「学校法人柿の実学園」の保育園は12園、「社会福祉法人共遊の会」が運営する保育園が2園、関連法人である「学校法人玉林学園」の保育園が1園と、計15園のネットワークが整い、麻生区柿生地区の保育ニーズに応える「柿の実学園グループ」の保育体制が整っています。「柿の実学園グループ」の保育の特徴は、幼稚園も同様ですが『自然に囲まれた施設で、五感を通じて、「育ちあいの場づくり』を基本理念とした、子どもの育成を運営のベースとし、豊かな自然の中での育ちを支援しています。 ●はじめの一步保育園は、健全な心身の発達を図ることを目的とし、子どもの最善の利益を考慮し、子どもたちが「よりよく育つ」ことを願い、保育を進めています。集団での生活を中心に、たくさんの友だちと一緒に生活し、基本理念を基に実践しています。保育の特色として、1.「自然と友達になろう」、2.「自分の手で野菜を育てよう」、3.「おじいちゃん・おばあちゃんと仲良しになろう」、4.「英語でごあいさつ」、5.「木
--

工遊びを楽しもう」、6. 「音楽遊びを楽しもう」、7. 「運動遊びを楽しもう」、8. 「異年齢保育で楽しもう」等、豊かに、楽しく生きる力を育む取り組みがたくさん用意されています。

◇特に評価の高い点

1. 【輝く保育の推進】

●はじめの一步保育園では、恵まれた自然環境を生かした保育、自然の産物から子どもたちは発見と探求心を培い、それを保育士と一緒に試みる体験を通して、表現活動や主体性を持った取り組みにつなげています。また、環境が織りなす四季に触れ、食育の取り組み等から、子どもの好奇心、協調性、コミュニケーション、意欲等を育み、プロセスを大事にした保育により、子どもたちの“生きていく能力”につなげています。保育士は、子ども一人ひとりの力を「引き出す」よう支援を行い、わくわく感へと誘い、子どもと一緒に遊びを楽しんでいます。これらのキーは保育士です。保育士が興味を持ち、保育士が輝けば、子どもたちも輝き、双方向性を見出します。そして何より、子どもが遊びを楽しむ安全な環境と、非認知能力育成の根幹となる「安心感・信頼感」（輝く保育）があります。

2. 【自然と食育食農保育の取り組み】

●はじめの一步保育園は、食育活動において、食農に取り組み、将来的な「食を営む力」の育成に向けて取り組んでいます。現代の都会の子どもに土・自然に親しむ機会の提供と共に、有する農場を活用し、食農活動に取り組むよう企画しています。農場を開墾し、土作りをし、種や苗を植え、大人と一緒に子どもたちが世話をし、収穫体験を行い、食事で味わい、食育へとつなげていきます。また、「自然は、土は、植物は、昆虫は、ぼくらの先生」、「自然がぼくたちの友だち」と謳い、活動からの学びを、子どもたちが主体性を持って取り組む「生きる力」へと育み、社会的情緒を培っています。さらに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」へと養われています。はじめの一步保育園の保育は、学びに向かう力、人間性等、育成すべき資質を育む要素をふんだんに取り入れています。

◇改善を求められる点

1. 【「語り合い」について】

●はじめの一步保育園では、「輝きを持って語ること」を大切に、保育士が輝けば子どもも輝く、そして保護者も輝く。との考えの下、保育に取り組んでいます。ただし、「輝きを持って語る」時間確保については、マニュアルもさることながら“自然”が園の教科書でもあり、自然にマニュアルはなく、日々の保育を通して皆で話し合うことが必要です。「輝き」の論理から先ずは、周りの人に照らされて自信を持ち、自らが煌めいていき、そして自らが周りを輝かせる、「輝き」の循環を作り、「人」の育成にもつながります。時間設定が困難な中、テーマを基に合間に語り合った言葉や各自の一言を記載するノートを持ち、言葉をつづり、それらを会議に取り入れていく工夫等も考えられます。これは子どもだけでなく、保育士にとっても大きなベネフィットとなり、継続して取り組んで行かれることを期待いたします。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：はじめの一步保育園

施設長：小島 敦子

<評価（自己評価等）に取り組んだ感想>

毎日の業務に追われ、いろいろな点の見直しをしなければいけないとは思ってはいても、月日が流れていく毎日でした。しかし、この第三者評価を通して、ついつい後回しになりがちであったあれこれの振り返りができ、改善点を見つけるきっかけとなりました。

園や職員に対する保護者の声を聞けたこと、また職員に、園にまつわるいろいろを伝えきれていないことや、理解されていないこと等を具体的に知ることができました。また、このようなことも視野に入れての取り組みが必要なのか等の学びの場、また、保育等の企画等においてのヒントに繋がるような項目がたくさんあり、勉強になりました。

<評価後取り組んだ事として>

いろいろな方針や考え等の周知の在り方を考え直してみたり、何となくこうであろうと思っていたことを具体的に考えられるようになりました。まだ具体的には実行できていませんが、令和4年度に向けての取り組みへのヒントに繋がっていることを実感しております。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり